

矢背やせの里さとは高野たかのの甘町北あまぢのにあり。天武帝てんむ大友王子おほともわうじと位を諍やましろひて山城やましろの北へ馳給はひし時、王子の軍兵追かけ奉りて射かけ、れば、御背みせに矢中やちゆうけり、此ゆゑに名とす。「又八瀬やせとも書」当所に竈風呂あり、天武帝てんむの矢の跡平癒あせのためしつらひしを始とせり。「今も竈風呂七八軒ありて、何れも国名を名乗る、竈風呂には青松葉を焼、功能勝るゝとなり」